

国際電気標準会議分担金

平成30年度予算額 **1.1億円 (1.0億円)**

事業の内容

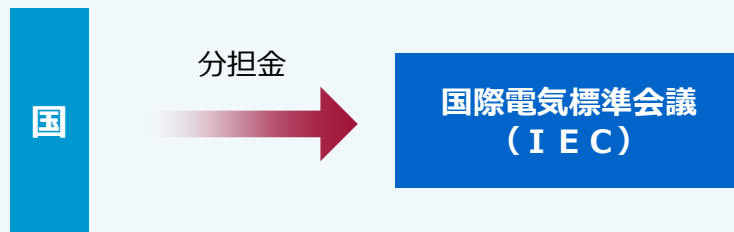
事業目的・概要

- 国際電気標準会議(IEC)は、83カ国が加盟する電気電子分野の国際標準化機関です。
- 日本からは、閣議了解に基づき、1953年から日本工業標準調査会(工業標準化法に基づき設置された審議会、事務局は経済産業省)が加盟しており、これに伴う分担金を支払うものです。
- 電気電子分野における、我が国産業の国際競争力強化の観点から、IECにおける国際規格作成プロセスにおいて、我が国の意見を発信、反映させています。

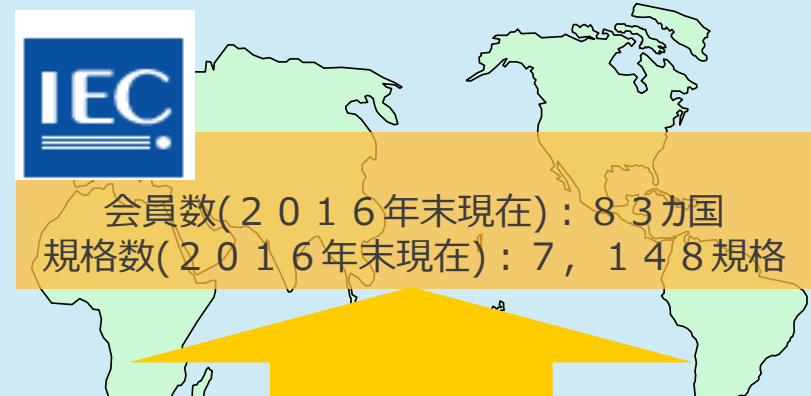
成果目標

- 昭和29年度からの事業であり、資金拠出に応じて国際電気標準会議の国際標準化活動において適切な便益を享受することを目指します。

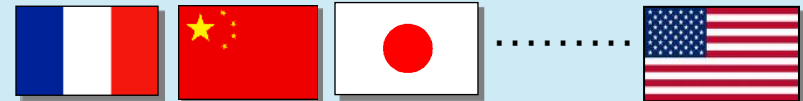
条件(対象者、対象行為、補助率等)



事業イメージ



- **1カ国1機関が加盟**
(会則: 分担金の支払)
- **積極的な国際標準化活動を実施**



- IEC役員として日本人を輩出している他、IEC上層組織である評議会及び標準管理評議会等において、常任ポスト等を継続して務め、リーダーシップを発揮している。
- これまでに、システムレベルでの標準化活動の推進や財務状況のさらなる透明性改善を提案。その結果、日本が強化したいシステム委員会の設置、財務管理プロセスの情報共有の拡充が実現した。
- また、昨年はTC123(電力流通設備の保守・管理の標準化策定委員会)の国際幹事ポストを、今年にはTC124(ウェアラブルの標準化策定委員会)の国際議長ポストを獲得した。